

当初予算が決まりました

「菊池市第2次総合計画前期基本計画」に基づく重点的な施策と第三次行政改革大綱による行財政改革を確実に実施するため、事業効果を重視した予算編成を行いました。

◎財政課 ☎0968(25)7205

本年度は、安心・安全の「癒しの里きくち」を目指してさらに事業推進を図ります。成果をより確実なものとするため、予算の選択と集中とともに、国の地方創生の支援を受けて、地方創生加速化交付金や地方創生推進交付金を活用した事業に取り組みます。

本市に関わる全ての人と連携し、「まちづくり・ひとづくり・しごとづくり」に取り組むための施策を推進していきます。

予算の概要

貴重な自主財源である市税は、税収全体で見ると若干の伸びが見込まれます。しかし、少子高齢化が進み生産年齢人口の減少が推測されるため、永続的

な税収の増加は見込めない状況です。地方交付税の合併による優遇期間が終了し、段階的な縮減が始まっています。さらに少子高齢社会の進行や厳しい雇用情勢を背景に社会保障費が年々増加しています。厳しい財政状況が予想されるなか、本市の目指す「安心・安全の癒しの里」実現に向け、「経済の活性化の仕組みづくり」「住みやすさ日本一の菊池づくり」の二つの大きな柱により、それぞれのプロジェクトを進めていきます。

観光戦略「癒しの里」構築プロジェクトでは観光情報の提供、観光資源の開発・活用、サービスの向上や地域イベントの実施などを効率的・効果的に進めるため、本市の実情に応じた組織づくりに向けた取り組みを行います。

住みやすさ日本一の菊池づくり

定住促進化プロジェクトとして、移住・定住を促進するために、空き家・空き地情報活用制度による登録物件を充実させていきます。移住フェアやお試し体験ツアーの開催、独身者への交流機会の提供を通して、本市

の魅力をより一層アピールし、地域の活性化につながる移住施策を推進します。

支え合い安心・安全プロジェクトでは、コミュニティ交通対策として「きくちあいのりタクシー」を七城地域へ新たに導入するなど、各地域の交通エリアを拡大します。また、運行日や運行時間を一部変更することで、中山間地域と市街地を結ぶ市民の利便性をより向上させ、地域に密着した交通体系づくりに取り組みます。

予算の規模

一般会計予算は、平成27年度当初予算と比べて5.6%増の305億800万円です。

歳入

主要な財源の市税では、市民税と固定資産税の増収を見込み、前年度比3.2%増の51億6328万円を計上しました。国・県などの特定財源と地方交付税などを加えても不足する財源は、将来の健全な財政運営を検証し、地方交付税の

の削減など、メリハリを効かせた歳出の重点化、効率化を図り、「安心・安全の癒しの里」の実現を加速させるため、市民目線で質の高い行政サービスを提供していく効果的な予算編成としました。

歳出

主に合併特例事業債を活用し、地域振興、活性化のための財源にできる地域振興基金の積立金12億7615万円を前年度に引き続き計上。普通建設事業は、庁舎等整備事業や生涯学習センター整備事業などにより、前年比22.3%増の55億3145万円を計上しました。

ホームページに分かりやすい「市民向け予算説明書」を掲載しますのでご覧ください。平成28年度予算書は財政課で閲覧できます。



歳入

- 自主財源 地方公共団体が自らの権能に基づいて自主的に収入するもの
- 依存財源 国や県の意思決定に基づき収入されるもの
- 市税 市民税や固定資産税など市民の皆さんからの税金
- その他 分担金、負担金、使用料、手数料、繰越金、諸収入など
- 地方交付税 地域ごとの状況の違いを調整するため国税の一部から交付されるお金
- 国庫・県支出金 特定事業に対し国・県から使いみちを指定して交付されるお金
- 繰入金 基金から一般会計に組み入れるお金
- 市債 長期間利用される市の施設をつくるために借り入れるお金

歳出

- 義務的経費 人件費、扶助費、公債費を合わせた、毎年必ず支出が必要となる費用
- 人件費 職員の給料や退職金などの費用
- 扶助費 保育所の運営、生活保護、子どものための手当て、医療費の援助などの費用
- 公債費 過去の借入金に要する返済のための費用
- 普通建設事業費 道路工事や施設などを建設する事業に要する費用
- 物件費 消耗品や備品などに要する経費、委託料、光熱水費など
- 補助費等 公益的な事業などに対する補助金や負担金など
- 繰出金 一般会計から特別会計などに支出する経費

グラフで見る当初予算

右の円グラフは、平成28年度当初予算の「歳入」「歳出(目的別・性質別)」を表しています。

